

～患者団体向けインフォメーション・セッションを開催～

＜「これからの地域医療のあり方」について考える」をテーマに講演会と座談会を実施＞

日時：2015年12月2日（水曜日）

場所：東京・丸の内

PhRMAは、日本の患者団体の方々への支援活動の一環として、去る2015年12月2日（水）、本年度2回目となる「インフォメーション・セッション」を開催しました。

今回は、前回のインフォメーション・セッション（<http://www.phrma-jp.org/archives/pdf/150820infos.pdf>）で、皆様に日本の医療制度を取り巻く課題についてグループディスカッションを行っていただいた結果、今後、このインフォメーション・セッションの場で意見交換・情報交換をしていきたい課題として、最も関心が高かった「地域医療」にフォーカスし、「これからの地域医療のあり方」について考える」をテーマに、講演会と、講演講師を交えた座談会の時間を設けました。

今年度の1回目、2回目とも、異なる疾病領域やバックグラウンドをお持ちの患者団体の皆様が集うPhRMAインフォメーション・セッションだからこそ、疾病領域を超えた共通の課題を浮き彫りにでき、さらには、その課題に対して、相互に協力し、取り組んでいくことができるのではないだろうか、また、異なる立場の意見を知ることによって、各団体の今後の活動に活かしてもらえるのではないかという発想から企画しています。

■講演(1)『地域医療構想と医療提供体制について』

講師：伯野 春彦先生

（厚生労働省 医政局 地域医療計画課 医師確保等地域医療対策室 室長、在宅医療推進室 室長）

まず初めに、厚生労働省 医政局 地域医療計画課の伯野先生から、「国」が考える地域医療構想についてご講演いただきました。

今後、日本に起こり得る社会構造・人口構成の変化、それに伴う医療需要の将来推計をもとに、医療提供体制と地域包括ケアシステム構築の大枠について、また「なぜ各地域で病床数、医療機能を調整していく必要があるのか。なぜ地域医療構想が必要なのか」等、地域医療構想策定の背景や、実現に向けた厚生労働省の対応についてご説明いただきました。「人口構成の変化を考える上では、医療だけではなく、長期的な視点で、街づくりの段階から変化に対応していく必要がある」といった考え方に、参加者が大きく頷く姿が見受けられました。

講師：伯野 春彦先生



講演風景



■講演(2)『日本におけるコミュニティー・ヘルスの未来 -神奈川県事例の紹介も含めて-』

講師:宮田 俊男先生

(特定非営利活動法人 日本医療政策機構 エグゼクティブディレクター、内閣官房健康医療戦略室戦略推進補佐官、神奈川県庁顧問)

次に、特定非営利活動法人 日本医療政策機構の宮田先生から、医療法が頻繁に改正されている状況や、医療費の財源など、日本の医療を取り巻く現状、また、今後期待される医療を実現するために必要な事項についてなど、様々な視点からご講演いただきました。

「例えば在宅医療の受け皿をどうするかといった課題は、地域の中において地域の皆さんが主体的に考えていくことが、今後、より重要になっていく」、「欧米でもホットトピックになっているが、日本も産官学だけではなく、医療に関わる事業を構築する段階から、患者さんや国民も受け手ではなく、プレイヤー側として参加してもらえるような環境を整えていくことが望ましい」など、患者(団体)や一般市民がどのように、地域医療もしくは今後の地域医療構想の実現に関わっていくべきかということにも触れていただきました。

講師:宮田 俊男先生



講演風景



■講演(3)『千葉県における地域医療構想の現状について』

講師:宍倉 朋胤先生

(公益社団法人 千葉県医師会 広報・ICT 関連・救急災害・公衆衛生担当理事)

最後に具体的な地域医療構想の取り組みの事例として、千葉県における地域医療構想の進行状況について、千葉県医師会の宍倉先生にご講演いただきました。

同じ県内でも地域によって医療格差があり、医療資源をどのように平均化していくかが、地域医療構想の大事な要点であるというお話がありました。また、将来の病床機能の配分のイメージに近づけるためには、地域ごとの詳細な医療機能を把握した上、協議を重ねていく必要があるが、そのための条件設定は多岐にわたり、将来の推定値を決めていくことの難しさや、現在表面化している課題、そしてその課題解決に向けた取り組みについてもご説明いただきました。

講師:宍倉 朋胤先生



講演風景



■座談会

座談会は、参加者からの質問に講師が回答する形式で座談会が行われました。「地域医療構想のビジョンにおいては、医療事業と介護事業の連携は、今後どのようにリーダーシップがとられていくのか」、「医師不足や診療科偏在の問題に関して、どのような対策が考えられているか」、「行政が市民活動を取り上げてくれるような仕組みづくりはどうなっていくか」等の質問があり、立場の異なる3名の講師にそれぞれの視点から、ご回答いただきました。

座談会風景



今回は、16 団体、23 名の患者団体の方々が参加され、参加者の方々からは、「それぞれの先生のお話が興味深く、勉強になりました。」、「構想と現実のギャップはまだ埋まらないと思った。でもあきらめずに取り組んでいきたい。」、「地域の中で、色々な方々と意見交換しながら、目的達成のために努力すべきと痛感しました。」、「座談会での質問に対しても、講師陣が明確で分かり易い言葉でお話ししてくださったので、理解できました。」等、多くのコメントが寄せられました。